

# We are 17期

押本俊明 (FW)  
角皆茂樹 (FW)  
小塙孝明 (FW)  
(旧姓・虎岩)  
田口秀明 (FW)  
品田敏孝 (FW)  
内藤幸一郎 (FW)  
丸物正直 (HB)  
中前 裕 (HB)  
三村直士 (HB)  
新井宗孝 (HB)  
(平成12年逝去)  
鈴木久仁 (BK)  
井上譲治 (BK)  
殿内 力 (BK)  
坂本 隆 (BK)  
堀越良治 (GK)  
平野英治 (GK)

## 強いといわれながら、高校時代にやり残した「何か」に今もこだわり続ける人々

### 現在・過去・未来

平野英治

●2001年 新潟

2001年6月2日、われわれは新潟のビッグスワン・スタジアムにいた。新日鉄新潟支社長をしている押本の周到なる企画のもとに集まつた17期サッカーチームは、鈴木、丸物、坂本、角皆、中前、そして平野。コンフェデレーション・カップ予選の、日本対カ梅ルーン戦の観戦が目的である。

後半30分過ぎ、右コーナー付近で西澤が敵ディフェンダーともつれ合つてこぼれたボールを、森嶋がセンタリング。これをジャンプ一番、鈴木がヘッドでゴール左上に流し込む。日本2点目。そのまま、2対ゼロで日本快勝。

カ梅ルーンは、いわざと知れたアフリカの強国である。中田(英)のフィジカルは強い、小野のセンスは良い、西澤はやや鈍い、難しいシュートをきつちり決めた鈴木は殊勲甲。一同、思い思いの勝手な感想を並べる。しかし、カ梅ルーン

に勝つなどということが、そう簡単にできるものではない。実は、四の五の言つても、皆感動しているのである。あまり表に出さないのは、昔から変わらない。これが、ある意味で40年近くもサッカーにこだわってきたわれわれの小さな誇りであり、スタイルである。ニッポンチャチャチャヤどころではないのだ。逆サイドの動き、ダイレクトパスの速さ、一瞬のフェイント、ハイボールを競り合うときの体の入れ方、動き出しの巧みさ、等ひとつひとつのプレーをチェックしているのである。自分たちの過去と重ね合わせるように。

小生の隣は押本。オフサイドくさいと見るや、「オフサイド! 審判よく見よ」、終了間際には、「キープ、キープ、OK、OK」、低い声で怒鳴る。30数年前の試合の印象が、一瞬脳裏をかすめる。時は流れても、体にしみこんだ思いは残る。多くはほろ苦く、重苦しい。何かやり残したものがある。だから、おじさんはこだわる。

角皆が住友商事・プラッセルに勤務していた頃、帰国時に都合がつけば、サッ

に勝つなどということが、そう簡単にできるものではない。実は、四の五の言つても、皆感動しているのである。あまり表に出さないのは、昔から変わらない。これが、ある意味で40年近くもサッカーにこだわってきたわれわれの小さな誇りであり、スタイルである。ニッポンチャチャチャヤどころではないのだ。逆サイドの動き、ダイレクトパスの速さ、一瞬のフェイント、ハイボールを競り合うときの体の入れ方、動き出しの巧みさ、等ひとつひとつのプレーをチェックしているのである。自分たちの過去と重ね合わせるように。

カーチームの何人かで集まつた。当然、話題はサッカーに及ぶ。彼は、ブラッセルでサッカーチームに入つていた。「向こうの奴はうまいか」と聞けば、「皆、うまいぜ」。

元エース・ストライカーの弁は、説得力がある。その角皆は、自宅の地下室をトレーニング・ルームにしていた。「俺、最近リフティングうまくなったよ」という五十のおやじの言葉は、忘れがたい。

さて、われわれが集まるたびに、ほぼ毎回といって良いほど話題になるのが、栄光サッカーチームの近況であり、そしてサッカーと教育という問題である。新潟でもそうだった。

現状の栄光サッカーチームは、総勢100人を大幅に超える大所帯であると聞く。

グランドに部員があふれている姿が、連想される。が、戦績についてはこれといつた話を聞かない。

思ひ浮かぶことは、勝負にこだわらず、体力・健康増進のため、楽しくサッカーをしている部員の姿である。それはそれで、ひとつ姿だ。しかし、勝負に対するこだわりとそれがもたらす緊張、勝利

こうしたもうもの要素を、若き人生の数ページに焼き付けることの意味は、決して小さくないよう思う。

サッカーチームであつたDASHには、そうした息吹が刻み込まれている。

1963年のDASHには、当時入部し

たばかりの17期サッカーチームを代表して中

前が、短いかわいらしく文章を綴つてい

る。そこには「僕は何のためにこんなつ

らい練習をしているのだろう」という率

直な十二歳の疑問がある。こうした疑問

は、誰しもが持つ。しかし、うまくなる

う、勝ちたいという思いで頑張る。「今

日もとうとう最後まで頑張った」と、中

前は結ぶ。同じDASHには、われわれ

の先輩が出席した各種大会の戦績・戦況、

後輩指導者としての思い、などが書かれ

ている。改めて読み返してみても、紙面

から伝わる熱い思いと、高校生ながらも、

その成熟した観察眼に、圧倒される。そ

して、こうした環境に身を置くことので

きた自分を、幸せに思う。

1965年夏、中学3年のわれわれは

三ツ沢サッカーフィールドにいた。南加瀬中学と

1967年の世相

6月 第三次中東戦争  
7月 EEC(欧州共同体)結成



中3夏の県大会で優勝



南加瀬中学との熱戦（三ツ沢）

想い出の  
One Scene

## 「パンツの呪い」

中前 裕

薄暗い廊下の突き当たりの右。そこに37年前の大船の部室はありました。中3のある練習の日、私は不覚にも短パンを忘れてしまったことに気付きました。こんな時、友達とは冷たいもので、「あっバッカデー。短パン無しじゃ練習できねえじゃん！」。

みんな私を残してグランドに出て行きます。練習を休む訳にも行かず、部室をウロウロしていると、机の横に15期GSPさんの白い短パンが“立って”いるのに気付きました。そうです。GSPさんは泥と汗にまみれた短パンを決して洗わずに、穿いていたときのまま部室に“立てて”帰ることで知られておりました。一瞬の躊躇。結局、私はGSPさんの短パンを穿いてグラウンドへ出陣したのであります。

そして数日後。私は耐えがたい股間の痒みに悩まされ始めるのです。あの赤く丸い環状に腫れるアレです。しかも恐るべき感染力。程なくして17期サッカー部のほぼ全員に、おぞましいアレが蔓延することになりました。30年以上を経た今も、私は17期にアレを蔓延させた男という不名誉を負うはめとなってしまったのです。

あまりの痒みと痛みに私は人伝てに聞いた皮膚科の名医、横浜は黄金町の水野医院の門を叩くことにしました。当時の黄金町をご存知の方にはお分かりいただけると思いますが、中学3年生の少年にとって、あの黄金町の皮膚科泌尿器科に一人で入っていくのは、かなり勇気を要することでありました。周りのおねーさん達の好奇の視線を浴びつつ、やがて名前が呼ばれ、入室。ボソボソと症状を説明すると、水野先生「ハイ。全部下を脱いでそこに横になつて!」「エッ?」だって先生の横には息を呑むようなきれいな看護婦さんが……。モゾモゾしている私に、その超美人看護婦さん（後で聞けば実は先生のお嬢さんだった）曰く「ハイ、早く脱いで横になりましょうネ」。そして、ごく自然に白魚のような手で私の股間に塗り薬の塗布を開始したのでありました。アーッ、GSPさんっ! 何と言う事を……。大船の部室を想う度に蘇る悪夢ではあります。

運動靴をはいていた。だから試合中よく滑った、という印象がある。多分実際のところは半分緊張、残りの半分は芝に慣れということだつたらう。われわれの試合の前に日本サッカーリーグの古河対日立のゴールデンカードが組まれていたこともあり、観客は2千人を超えていた。緊張するのは無理もない。

当時のフォーメーションは、いわゆるWM。最初のゴールチャンスはすぐに来

た。右ウイングの小生に角皆からスルーパスがでたが、小生は芝生に足を取られドはでこぼこだった。移転後の大船は芝のグラウンドにするとの触れ込みだったが暫くは使えず、東急が造成中の団地で練習していた。だから、三ツ沢の芝生に足を踏みいれた時には、鳥肌が立つた。しかし、われわれはスパイクではなく、

運動靴をはいていた。だから試合中よくシーンは鮮明に覚えている。左インナーの内藤から左ウイングの田口へボールが渡り、田口がセンタリング、これをボントゲッターの押本が、敵ゴール右へ落ち着いてシュート。

バックスは、センターハーフの鈴木を中心によく守った。鈴木のジャンプヘッドのクリア、殿内の巨体を利したチエック、丸物、新井のハーフ陣の頑張りもあった。夏の暑い日であったが、ともかく2対1で勝つた。この時、初めてコートの辻さん（15期）の胴上げなるものをやつた。

冬の県大会も順調に勝ち進んだ。日程の関係で、準決勝、決勝はダブルヘッダーフォワード奥寺康彦を擁する舞岡中学と対戦し、4対ゼロで快勝した。しかし、シーンは鮮明に覚えている。左インナーの内藤から左ウイングの田口へボールが渡り、田口がセンタリング、これをボントゲッターの押本が、敵ゴール右へ落ちて着いてシュート。

バックスは、センターハーフの鈴木を中心によく守った。そして、これがわれわれの中に一種のエリート意識と思い上がりを生んだ面は、否めない。高校になると、事態は暗転する。押本が脊椎分離症でプレー不可能の状態になつた。ゴールキーパーの堀越はじめ、何人かが辞めた。県大会でも、思うように勝ち進めず、チームはまとまりを欠いた。

最も印象に残る公式戦は、強敵向の丘

ーとなつた。準決勝は、2年生セントラーフォワード奥寺康彦を擁する舞岡中学と代の17期サッカー部にとつて、練習試合を含めて唯一の敗戦である。中学時代の17期サッカー部の戦績は、華々しい。その日の午後行われた決勝では、寒川中学校にゼロ対1で惜敗した。これが中学時代の17期サッカー部にとって、練習試合を含めて唯一の敗戦である。中学時代の17期サッカー部の戦績は、華々しい。

高校との冬の全国大会県予選ベスト8をかけた戦いである。別ブロックにいた優勝候補筆頭の相工（相模工業大学付属高校）敗退の事実を試合直前に知った。相工には例の奥寺がいた。自然と氣合が入る。試合の方は、終了直前まで栄光がリードしていた。ホイッスルが鳴り、坂本が歓喜の手を上げた。しかし、それはファンの笛であった。その後、同点に追いつかれ、延長で逆転された。

練習試合では、朝鮮高校との一戦が記憶に残る。

強い、早い、やばいというのが彼らの第一印象であった。80分戦って、1対1の同点。この試合では、バックス陣が健闘した。親善試合だからこれで十分というのだが、わが方の率直な気持ちであった。ハングル語のできる新井が先方と交渉したところ、ぜひ延長戦をやつて白黒をつけたいという。延長戦で、左コーナーキックを敵センターフォワードに直接ヘッドで叩き込まれ、負けた。17期唯一の本格的な国際試合である。

いつかれ、延長で逆転された。  
練習試合では、朝鮮高校との一戦が記憶に残る。

第一印象であった。80分戦つて、1対1の同点。この試合では、バックス陣が健闘した。親善試合だからこれで十分とい

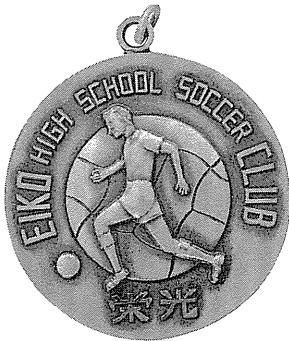
うのが、わが方の率直な気持しだった。ハングル語のできる新井が先方と交渉したところ、ぜひ延長戦をやつて白黒をつけておこう。延長戦で、左コロナーキ

ツクを敵センターフォワードに直接ヘッドで叩き込まれ、負けた。17期唯一の本格的な国際試合である。

未来人

その新井が死んだのが、1999年の秋だ。新井はユニークな快男児だ。自らの存在に強い主張があつた。そんな男が、沖縄の海に消えた。記憶に残る男の訃報を聞き、集まれる限りのサッカー部の連中が、かけつけた。仕事上も付き合いが深かつた井上の献身的な働きは、かつてのバックスとしてのプレー振りと重な

坂本や鈴木は、OBチームでサッカーを残されたわれわれも、五十を超えた。



## 卒業記念メダルのこと

14期 佐藤研三

中学一年の二学期から高校二年まで栄光でサッカーを続けていましたが、この間の思い出を一言で言い表すとすれば、「一年上の13期生は強かった」に尽きます。我々14期生は、決して弱かったとは思えませんが（高校二年の夏には関東大会にも参加したが、1対9と言う大差で浦和市立に敗れた）、13期生の華々しい戦果と比較すると、どうしても日陰草の様な存在でした。

この強かった13期生を送る恒例の送別会を、確か1964年（昭和39年）の12月（或いは、翌年の1月？）に我々の手で開催しました。13期生の活躍を少しでも記憶に残したいとの気持ちから、この送別会をどのようにしたら良いか我々14期で相談し、その結論は「卒業記念メダル」を創ろうと言う事になりました。メダルのデザインに関しては、当時から「D a s h」の表紙もデザインしていた「でんち」こと、笠木が担当し、私は町のメダル屋に出向きどうしたら我々の手でメダルを作成できるか、いくら予算が必要かを詰めました。結局、川崎にこの種のメダルを原版から作成してくれるメダル屋がある事を突き止め、何回か足を運び、でんちが作成したデザイン（上の写真）を無事、メダルとして鋳造して貰いました。この記念メダルを送別会の席で13期生の方々に贈り、一人ずつ首から下げて貰い、少しでも偉大な記録と結果への記念とする事が出来たとうれしく思った次第です。

翌年は、14期の我々も後輩からこのメダルを卒業記念に頂きました。それは今も栄光サッカー部の卒業記念として我が家に残っています。我々の後、何期生までこのメダルが卒業記念として使われたか聞いていませんが、今もお持ちの方が居られたら、「このメダルは強かった13期生の卒業を記念して我々の手で作成したもの」である事を思い出して下さい。

チームに加わるだろう。大学教授の内藤は、熊本でサッカーをしている。栄光卒業以来、大学、社会人と一貫してサッカーを続けている。角皆や押本も東京に戻れば、われわれが直接共有した時間は、職場の同僚よりは、少ないだろう。しかし、凝縮された時間は、何倍もの重みを持つ。凝縮した時間を共有することこそ、サッカーをやっていた意味だ。

栄光の先生方にとつて、われわれはどういう存在であつたろうか。勉強した奴、しなかつた奴、様々だった。練習時間を使つて、今は亡きゲストアーフ・フォス校長とも、時に対立した。われわれの

「会社やめたら皆で何かやろうぜ」、われわれの口癖である。「集まれば、結構いいチームができるぞ」とも言う。三村のクルーザーで、釣りでもしているのが、せいぜいかもしれない。それでもいいのだ。何かがあれば、いや、何もなくても、われわれは集まる。集まれば、現主張を展開していた。

われわれが栄光でサッカーをしていた1960年代は、日本の高度成長期に当たる。1964年、われわれが中2の時に東京オリンピックがあった。新幹線が開通した。未来への希望と確信が、日本中にあふれていた。栄光でサッカーしながら、誰一人としてそんなことを意識していたわけではない。しかし、われわれが見ていたものは、確かに、日本の、日本サッカーの、そして自らの、坂の上の雲であった。年をとっても、その気持ちは、失はない。不器用な、こだわりのおじさん達のそうした気持ちを、後輩の若者に、伝えたい。

われわれが栄光でサッカーをしていた  
1960年代は、日本の高度成長期に当  
たる。

# HOTEL COSMO YOKOHAMA

ワンランク上のビジネスに、プライベートに  
ホスピタリティあふれる快適空間をご用意しております。



## ■宿泊

シングルルーム 8,500円より (サービス料・税金別)  
ツインルーム 16,500円より (サービス料・税金別)

## ■ご宴会

『同窓会プラン』 6,500円より (サービス料・税金込)

## ■レストラン

フランス料理 「ラ・メール」  
日本料理 「加茂川」  
中国料理 「菜心賓館」

日本ホテル協会会員  
 ホテルコスモ横浜  
HOTEL COSMO YOKOHAMA

代表取締役社長 総支配人  
平山 浩義 (19期生)

〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-1  
TEL 045(314)3111 FAX 045(316)1600  
<http://www.hotel-cosmo.co.jp>  
E-mail: [hirayama@hotel-cosmo.co.jp](mailto:hirayama@hotel-cosmo.co.jp)

サッカー & フットサル・ショップ!

PEQUENA ÁREA

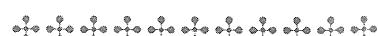
横浜市南区新川町5-32

TEL : 045(260)9616

(ピケーナ・アーリアとはポルトガル語でゴールエリアを意味し、名づけ親は22期の永井君です。)  
9期大泉



## 「グランツ」メンバー募集!



### ●募集人材●

- ・チームプレーの出来る人。
- ・技術力不問(上手い人尚可!!)。
- ・ただし、体力維持・技術・チームでの機能向上には前向きに取り組める人。
- ・年齢も不問(20歳前後のチーム相手でも対等に渡り合う気概・体力があれば30代可)

### ●連絡先●

加藤 謙作 (31期主将)  
090-2311-9413 (時間不問 不在時は留守電へ)  
e-mail [kensaku\\_kato@ufjbank.co.jp](mailto:kensaku_kato@ufjbank.co.jp)

# 18期

We are

## ひたすらサッカーが好きだった。「全国大会に出たい」と本気で考えていた

### ブラジル通信

松本 敦

ペリこと、18期の松本敦です。

中学1年の時の創立記念祭で、当時、サッカーチームの顧問をされていたウエーバー先生がブラジル大使館から借りてきました。ブラジル・サッカーのフィルムを講堂の大画面で見て感激して以来、ブラジル・サッカーの虜になってしましました。デイディのデフェンスを抜き去るときの動物のような腰と足の動き。ガリンシャの魔法のように曲がるフリー・キック。そして、ペレの芸術の域に達したオーバーヘッド・キック。

### お山の杉の子

六甲遠征には、それなりに自信を持つ出かけていったような気がする。相手も全国大会に顔を出すような強豪じゃないのだから、と。結果は、スコアは忘れてしまったけれど、完敗。悔めだったな～。

最後の夜は体育館でき焼きパーティーとなったのだけれど、多分にいじけた気持ちがあったと思う。逆に、妙に全員が“ハイ”になっていた。「各校、何か出し物を」となり、我が栄光の番になったとき。

「♪まるまる坊主のはげ山は♪いつでもみんなの……」

言い出しちゃが誰だったのか、まったく記憶に無いけれど、呆氣なく衆議一決して歌い出しました。六甲も広島も全員坊主頭で、栄光はといえば長髪とはいわないまでも全員がフサフサ頭の訳だから。

これにはみんなビックリしたでしょうね。引率の先生(オレギさん)なんか、泣き出しそうな顔になっていたように思う。いま考えてみれば、ジョークにも何もなっていないけれど、大きなお咎めもなく(と記憶している)許されてしまったのは、誰が見ても(聞いても)負け犬の遠吠え以外の何ものでもなかったからだと思う。腹の中で「情けない奴ら」と思っていたのでしょう。昭和43年12月27日夜のまったくお恥ずかしい話でした。(S)

そして97年8月末。縁があつて、ブラジル・サンパウロに赴任して、まもなく4年になろうとしています。

98年のフランス大会はとてもショックでした。準決勝のオランダに苦戦の末勝利して、ブラジル人の誰もが優勝を確信していました。

決勝のフランス戦は、ボクも日系2世の友人の招きで、彼のブラジル人の友人

の家に集まりました。優勝は間違いないと、裏庭ではお昼からシユラスコ(焼肉)の準備がされ、試合前からビンガ(地酒)を飲みながら、同じく集まつた彼らの友人たちと盛り上がっていました。

友人の車のボンネットに大きなブラジル国旗を付け、ブラジル代表のユニフォームを着て……。サンパウロの街中には

優勝を確信した、やはり同じく車に国旗を飾り、ユニホーム姿のパウリスタ達がすれ違い様にクラクションで合図し合い、意揚揚と優勝祝いをすべく、その人たちに向かいました。

しかし、ロナウドの不調でフランスに予想外の惨敗。98年のお祭りはブラジル人を失望させたまま幕を閉じました。

日本で名の通つた選手がいるのはリオのバスコぐらいで、ロマーリオ、ジュニーニョ、ジョルジーニョ、新人ではエウレル(元パルメイラス)が居ます。

ブラジルは2002年のワールド・カップの南米予選で大苦戦しています。ボリビアやエクアドル、コロンビアなどのアウエー戦では、3000メートル弱の高地の競技場を使い、2~3日前にヨーロッパから呼び戻されたスター達がいきなり酸欠と戦いながら試合をしているという状況です。

リバウドにしてもロベルト・カルロスにしても、これが彼らがバルセロナやアル・マドリードでやつてのと同じ選手かと思える程の出来です。

それでもブラジル人達は陽気にサッカーを楽しんでいます。

モルンビー競技場では、ボディチエックの後に配られる国旗の小旗が、ふがない試合だと一齊にグランドに投げ捨て

荒木貞基 (G K)  
池ヶ谷進一 (H B)  
池田 求 (G K)  
石賀則由 (H B)  
伊藤卓郎 (F W)  
伊藤 雅 (F W)  
井上晴文 (H B)  
内田浩隆 (B K)  
大住良之 (F W)  
小野康二 (B K)  
越多義宏 (F W)  
小松 透 (H B)  
山口 明 (F W)  
(旧姓・庄司)  
菅原信夫 (B K)  
杉山 淳 (B K)  
高橋大介 (B K)  
田辺秀樹 (F W)  
当麻茂尚 (H B)  
友成真一 (G K)  
中村伸夫 (F W)  
新関良夫 (H B)  
広川隆司 (F W)  
発智徹夫 (H B)  
牧野内和彦 (H B)  
松本 敦 (B K)  
宮 辰也 (B K)  
宮田輝男 (H B)  
山辺福二郎 (H B)  
吉崎哲夫 (B K)

### 1968年の世相

川端康成、ノーベル文学賞受賞  
5月 パリ五月革命  
6月 小笠原諸島返還  
メキシコオリンピック、日本サッカー銅メダル



高校2年、「勝ちたい、どうしたら勝てるのか」それだけを考えていた



初勝利。対片瀬中戦



新入部。第一次サッカーブーム

最近では反則があると、主審がスプレーで反則の位置に丸印を描き、ディフェンスが下がらなくちゃいけない位置にラインを描いて、「問答無用」です。

大試合の時間帯に床屋に行くと、鏡ではなくテレビに向かって散髪をしてくれます。もつとも、これは客へのサービスなのかどうか怪しいものです。セントロのちょっと怖い雰囲気の裏道に入ると、

こども達が道路を競技場にサッカーをしています。言葉が上手く通じなくても選手の名前をあげるだけで、見知らぬ飛行機の隣席の人との話もはずみます。選手の流出で西欧化していくも、底辺を支えるブラジルのサッカーは昔と変わらない熱いラテンの血が流れています。

られ、まるで夜空に花開いた花火の名残火が落ちてくるようで、これほど芸術的にセレソンに対する不満の表現が出来るのは、さすがにブラジル人だと変な感心をしてしまいます。

また、ブラジル人は、とても、それも信じられないくらいに柔軟です。「サッカーエンペラオなんだから、もっと伝統を重んじて」なんて論理は通用しません。

サンパウロ州選手権では主審は2人で、サンパウロFCの1軍の試合でも女性の主審が登場したりします。チア・リーダーもいます。それも学芸会のようなチア・リーダーがグランドの横で試合中愛嬌を振りまいています。そんなチア・リーダーでもハーフ・タイムにグランドを一周すると、ウエーブが沸き起こったみたいに観客席から喝采が浴びせられます。

大試合の時間帯に床屋に行くと、鏡ではなくテレビに向かって散髪をしてくれます。もつとも、これは客へのサービスなのかどうか怪しいものです。セントロのちょっと怖い雰囲気の裏道に入ると、こども達が道路を競技場にサッカーをしています。言葉が上手く通じなくても選手の名前をあげるだけで、見知らぬ飛行機の隣席の人との話もはずみます。選手の流出で西欧化していくも、底辺を支えるブラジルのサッカーは昔と変わらない熱いラテンの血が流れています。

# 19期

We  
are

## 何年経つても小市民的穩健派

### 栄光サッカー「思い出」オムニバス

高橋正明

2001年6月、19期サッカー部の集

合連絡により、久しぶりに横浜中華街に

同期8人（津田、吉沢、三沢、前田、三

次、奈良、山中、高橋）が集合した。我

が19期は、毎年忘年会または新年会を中

華街で催すことを恒例としているが、こ

の時期は少々イレギュラー。幹事の津田

より創部50周年記念誌への原稿提出とい

う集合の趣旨が伝えられ、遙か30年以上

も昔に記憶を巡らせるに至った。

まず「在籍者全氏名」であるが、「全

」というものが問題で、かなり昔の名簿など

を参考に中学時代から部員の本名を洗って行く

と、サッカー部員で一緒に部活をやつた

のか、一緒にサッカーをして遊んだのか

わからない。「全」部員の本来の趣旨は

良くわからないが、記念事業の趣旨に従

い同期生にもこの「記念誌」を購入して

もらおうという下心で、迷惑かも知れないが、疑わしきは「部員」に加えさせてもらうこととした。

浅田 豊  
石井隆明  
上田和男  
遠藤 宏  
神里 晋☆  
久保田宏二☆  
倉見育男  
近藤恭二  
清水 隆  
高橋正明☆  
田島秀朗☆  
津田裕孝☆  
中島 真  
奈良知道☆  
根本 博  
野田政樹  
深野和彦☆  
前川昌美  
前田善晴  
松本滋彦  
三沢紀之☆  
三次 哲  
三原敏夫  
森 不二夫☆  
安永 豊  
山中 馨☆  
吉沢伸明☆

(☆は高校卒業時の  
メンバー)

### 1969年の世相

- 1月 東大安田講堂事件
- 7月 米アポロ11号、月面着陸に成功
- 7月 ホンジュラス・エルサルバドル間「サッカー戦争」勃発

## 伝説のリポート

想い出の  
One Scene

県大会準決勝進出をかけた後半残り1分での劇的な逆転ヘディングシュート、あと一歩で追いつけなかった無念のノーゴール、などという緊張感のあるはなばなしの思い出のワンシーンは、我が19期のサッカー人生にはなかったようである。忘却の彼方ではっきりと思い出せる試合すらないが、それでも断片的に「伝説」は、甦るのである。

中学校の予選リーグ戦、真夏の炎天下、長後中学のグラウンド。なんとか勝ってくれ！ と当時の高校生コーチ平本さんが試合前のミーティングでスターティングメンバーに自腹で与えたのが、リボビタンD。先発メンバーにのみ与えられたおまじないの成果は上々で、相手松浪中のベンチが「今日の栄光は強い！」と首をかしげていたのを、何人の選手が記憶している。

その試合の後半、相手シュートが栄光ゴールを襲った。津田がスライディングをするも、実はボールはまだ津田のまたの間にありゴールラインを割っていないのに、審判にゴールを宣告されてしまい、結局この試合は、0：1で敗れた。

いかにも我が19期らしい、シマラない「伝説」が、妙になつかしい。

（高橋記）

次に「思い出のワンシーン」なるものだが、これが大変。すでに集合メンバーの記憶の限界を振り切っている。

それでも幾つかの思い出シーンの断片

が出てきたが、どれもあやふやで記憶が

完結しない。が、せっかく復活した記憶

なので、この機会に記録しておく。

●「伝説のリポート」とこれが出席

者のベストワンシーンに選ばれた。

●昔のサッカーマガジンの高校特集記事

に、栄光の紹介記事が掲載されていた。

●夏休みの練習中に神里と中島が倒れ

た。当時担当コーチだった16期平本さん

が職員室に呼ばれ、注意を受けた後、部

活停止になった。

●舞岡中学との試合で、奥寺、浅田らと

●遠征試合後のレセプションでスキヤキ

パーティーが催されたが、広島学院の選

手がスキヤキに砂糖を目一杯入れたのに

は驚いた。

●遠征にあたり、天狗さんが新幹線の利

用を許可せず、普通列車で移動した。

●オレンジユニフォームの向の丘工キヤ

ブテンのセンターフォワードに、何度も

ゴール前45度からの打点の高いヘーデイン

グで得点された。

●追浜高校グランドで、泥んこコンディ

ションの中で試合をした。

●相工大付属高校で恐らく高校最後の試

合だったと思われるが、大雪の中真白な

グランドで健闘の末惜しくも破れた。試

合後ネットに向かつて高橋が悔し泣きし

ていた（ホントか？）。

●オレギ先生から、スペインリーグ、特

出会い、その後、相工大付属高校時代を含めて同じ湘南地区で戦いながら、段違のうまさは常に脅威だった。

●高校生の時に、18期と共に現在のJ

H A F杯（3校対抗戦）の原形になった

神戸六甲学院への初めての遠征試合を行

つた。

●遠征試合後のレセプションでスキヤキ

パーティーが催されたが、広島学院の選

手がスキヤキに砂糖を目一杯入れたのに

は驚いた。

●遠征にあたり、天狗さんが新幹線の利

用を許可せず、普通列車で移動した。

●オレンジユニフォームの向の丘工キヤ

ブテンのセンターフォワードに、何度も

ゴール前45度からの打点の高いヘーデイン

グで得点された。

●追浜高校グランドで、泥んこコンディ

ションの中で試合をした。

●相工大付属高校で恐らく高校最後の試

合だったと思われるが、大雪の中真白な

グランドで健闘の末惜しくも破れた。試

合後ネットに向かつて高橋が悔し泣きし

ていた（ホントか？）。

●オレギ先生から、スペインリーグ、特



高校（後列左から）吉沢、久保田、田島、東郷先生、山中、高橋、深野（前列左から）津田、ウェーバー先生、森、オレギ先生、神里、奈良、三沢



中学（後列左から）根本、森、中島、神里、遠藤、石井、吉沢、前田、深野、津田、三原、野田  
（前列左から）久保田、山中、三次、奈良、三沢、平本さん、清水、前川、浅田

## 主な戦績

不明（ウワサによると、栄光の図書室に何か資料があるという話もあった。）

?

にリアルマドリッドの試合の話を何度も何度も聞かされた。

- 中学生「海のキャンプ」で、スペインリーグの映画を上映してもらった。
- ウエバー先生のコーチをする時の口マネが流行った。
- 強豪広島学院からレディスマ先生が突然栄光グランドに登場。
- 高校2年の記念祭の時に、ドイツ大使館からフィルムを借りてワールドカップのゴール特集映画を上映した。

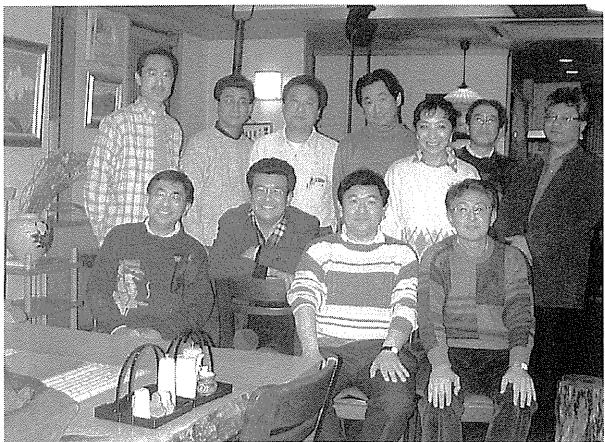
以上、年代等順不同であるが、こうしてみるといかに19期の部活の意識が勝負にこだわっていなかつたかが証明される。それでも、当時から30年以上も経つて50歳になろうとする今でも振り返ることのできるサッカーの世界を持てたことは幸せであり、これからも各自、歳相応のサッカーの世界を大切にするだろう。

今回の企画を通して、50学年にわたる「その後」が見えて来る。卒業後同期で一度も集合したこともない崩壊した期もあるようだが、飽きもせず、年に1~2は集合し、酒を飲みながら馬鹿話ができるだけで十分幸せなのかも知れない。





サッカー部の精鋭たち（1970年某月某日栄光学園グラウンドにて20期と21期）



30年後の精鋭たち（2000年12月30日忘年会にて）



遠足先でも 練習に励む？根岸、古山、角田、外池、金澤、岡部（中2の頃）

現役時代のユニホーム（GK）とアスレティコ・マドリッドのサインボール（高村所蔵）



2011.8.15B

## 主な戦績

- 1970年度（20期は高2）
  - 関東大会県予選（ベスト32）
  - 全国大会県予選（ベスト16）
  - 県新人戦湘南地区予選（リーグ戦全勝）
  - 湘南地区大会（県新人戦予選を勝ち抜いた4校によるトーナメントで準優勝）
  - 県新人戦 本選（ベスト16）
  - 練習試合を含め32試合（22勝6敗4引き分け）
- 1971年度前半（20期は高3）
  - 関東大会県予選（準優勝）
  - 全国大会県予選（ベスト4）

※根岸君は現在2児の父。電源開発株式会社で西山君とともに活躍中。H13年4月から青森県の大間（NHK朝の連続ドラマ「私の青空」まぐろの一本釣りで有名になった所）に単身赴任している。

- DASH。編集者（金沢）に敬意を表して、みんなよくお札をすること。
- さぼり。あんまりするとやつぱり良くない。さぼる時はキャプテンと相談すること。
- ダッシュ。最初の5mを早く走れればそれでよい。これで勝負が決まる。
- けが。すりきず、きりきずはヨーチン一発ですぐ直る。オレギ先生に診ていただく事。
- おまけ。オレギ先生がスペインに帰国し、アスレティコマドリッド（プロリーグ1部）のサインボールをおみやげに持ち帰られた。激しい争奪戦（PK戦）の結果、高村にとられてしまった。狙つていたのに残念。

# We are 21期

**国体選抜候補3名を擁す。今も四十雀リーグで10余名が活躍**

メンバーを紹介する。

ついでに在学時の（あるいは現在も）渾名も記録する。

加藤重和 キャプテン。現在日立製作所勤務ながら、ずっと山口県に居住。陰ではメンバーは「百姓」と呼んでいた。卓越した突破力とプレースタイルへの賞賛の裏返しでもある。

西郷裕之 サブキャプテン。守備の大黒柱。今から考えても超高校級。現在建築設計関連。

木村 純 そのテクニック、センスは万人の認めるところ。北大でも勇名をはせた。北海道でずっとお医者さん。

以上三名は国体選抜候補。

伊藤誠治 中学に入ったときから「ディサン」。身長もずっと変わらず。チームの必須メンバー。バッック。ブリジストン勤務。現在アメリカ在住。

小林博昭 「ケバ」。名字の変形で他意はない。ストッパー。ジャージの似合う中学校の先生。現在OB会幹事長。

山上保 「シユウチヨウ」。中学一年一学期、A組級長だったというのが理由。左利きをいかしたワインディングプレーヤー。ソ

ニード勤務。

柄沢雅生 フォワード一筋。未だに高校時の体形を維持しプレーに遜色ない。その分年中体形のプレーヤーと、ついでに女性にも点数は辛い。故に筆者と一緒に未だ独身。シティバンク勤務。

後藤哲也 高校卒業寸前ようやく筋力が完成し、その後不動のセンターフォワー

ド。現在のシニアチームではパワーバランス上センターバックを強いられている。

柳村 晓 「アカツキ」。サトルという名前を中学一年の時読めなかつただけである。深いタックルが定評のバック。

小嶋一雄 キープ力のあるハーフ。ニコ

ニコ笑いながら敵を抜いていた。ニッサン勤務。

藤田 裕 センターフォワード。奔放すぎて、ほとんど点は入らなかつた。丸紅勤務。

飯島 真

お世話になつたパン屋の御子息。ほとんどベンチだつたけど不可欠のメンバー。ブリジ斯顿勤務。

森 肇 ハーフ。重馬場では威力を發揮した。現在ベンチャーエンターテイメント社長。

西井 純 バック。バイプレーヤー。現在県庁に勤めながらベルマーレの応援にいそしんでいる。

宮田 浩 ゴールキーパー。よく一緒に砂場で練習した。設計事務所勤務。

桐原 隆 ハーフ。ガッツあるプレーが思い出される。横浜市役所勤務。

長島秀行 「チヨウサン」。バック。温厚を絵にかいたように太つていた。現在、家業を継いでいる。

土屋雅則 中学の時から「バアサン」。太めながら足の速いバック。お医者さん。清水雅志 サイドバック。忠実なプレーで一時はレギュラー。日本銀行勤務。「バ

広瀬裕敏 (G K)  
宮田 浩 (G K)  
伊藤誠治 (F B)  
清水雅志 (F B)  
土屋雅則 (F B)  
長島秀行 (F B)  
西井 純 (F B)  
柳村 晓 (F B)  
小林博昭 (C B)  
西郷裕之 (C B)  
桐原 隆 (H B)  
小嶋一雄 (H B)  
宮崎登美久 (H B)  
森 肇 (H B)  
飯島 真 (F W)  
木村 純 (F W)  
宮野尾哲司 (F W)  
山上 保 (L W)  
柄沢雅生 (C F)  
後藤哲也 (C F)  
藤田 裕 (C F)  
加藤重和 (R W)

1971年の世相  
3月 沖縄返還協定調印  
12月 円切り上げ、1ドル308円

想い出の  
One Scene

## 初めてのPK合戦

30年も前のことではあるけれど、不思議にサッカーのこととなると記憶が鮮明に残っている。昭和46年の丁度今頃、4月から6月にかけての3ヶ月間で、我々21期を中心としたチームは実に17試合の公式戦を戦った。どの試合にもそれぞれ思い出があるし、忘れ難い試合も数多い。

関東大会予選では、2ヶ月前の新人戦で県ベスト4になった大和高に4回戦で勝って勢いにのり、県決勝リーグでは相工大附（現湘南工大附）と同率2位、プレーオフの県代表決定戦で接戦の末に敗れた。リーグで引き分けた試合での終了間際に取られたPKの判定、決定戦での土壇場で奪われた決勝点は、最も悔しい思い出として脳裏に蘇る。

続く高校総体戦では関東大会代表2校は予選免除のため、何と栄光は第一シード。5回戦のブロック決勝では、この年から採用された新ルールにより、神奈川県高校サッカー界初のPK合戦となつたがこれを制し、再度県決勝リーグに進出できた。4-4からサドンデスに纏め込み、8人目のGK高村さん（20期）が決めた瞬間の記憶も鮮明だ。

この年のチームは、20期の根岸、高村、本田の各先輩、一年生の22期からは宮、村山の両君が加わり、21期には、木村、西郷という攻守の要を持ったバランスのとれたチームだった。主将としてこのチームでプレーできたこと……を改めてメンバー全員に感謝したい。（加藤重和）

宮田 浩 ゴールキーパー。よく一緒に砂場で練習した。設計事務所勤務。

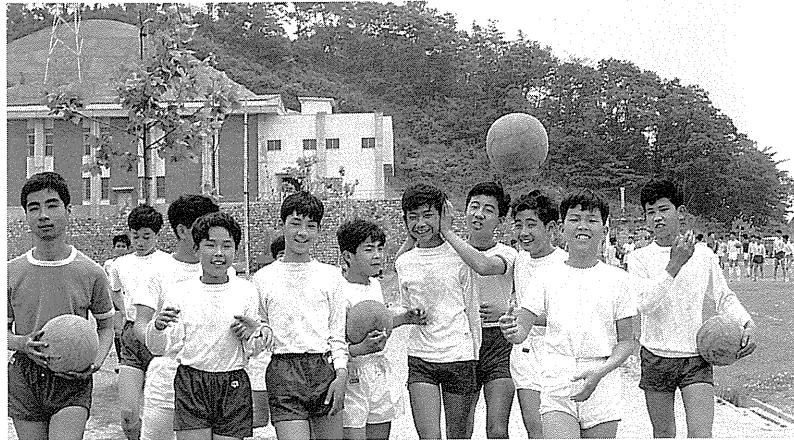
桐原 隆 ハーフ。ガッツあるプレーが思い出される。横浜市役所勤務。

長島秀行 「チヨウサン」。バック。温厚を絵にかいたように太つっていた。現在、家業を継いでいる。

土屋雅則 中学の時から「バアサン」。太めながら足の速いバック。お医者さん。清水雅志 サイドバック。忠実なプレーで一時はレギュラー。日本銀行勤務。「バ



高3（昭和47年）



中2夏の練習（昭和43年）

## 主な戦績

### 中学校

- ・県大会湘南大会4位（昭和44年）
- 高校
- ・関東大会県大会準優勝（昭和46年）
- ・インター杯県大会ベスト4（昭和46年）
- ・高校選手権県大会ベスト32（昭和46年）
- ・新人戦予選2勝1分1敗（昭和47年）

宮崎登美久 ハーフ。「トミサン」。眞面目がプレーしているタイプ。東京システム技術勤務。

宮野尾哲司 ハーフ。中学時代のテクニックはピカイチだった。松下勤務。

筆者、広瀬裕敏 「カバ」。不本意だったが最近ますます似てきた。貿易会社経営。ロシア貿易二十年だが、ゴールキーパーは三十五年（それしかできない）。

21期の自慢を探す。

木村、加藤、西郷はうまかった。

中学では優勝も期待されたが、筆者が絶不調で湘南大会敗退。

高校では、関東大会県予選同点準優勝が最高で、卒業後の県知事杯準優勝も含め、結局優勝には手が届かなかった。

卒業後クラブチームで五年位活動し、現在は、四十雀リーグの栄光クラブで活動している。メンバーは小林、伊藤、山上、柄沢、後藤、柳村、小嶋、藤田、広瀬。好川（軟庭）、与儀（山岳）を含め、チームの主力勢力を堅持。

結局一番の自慢の種は、しつこく続けていることか。

# 22 甘期

We are

## 今もそれぞれの持ち場で情熱を燃やす!? サッカー大好き人間がゾロゾロ

### サッカー雑感

宮 恭久

久々に発行されるDASHに掲載する大会出場を賭けたアジアBグループでも4戦して3勝1分、勝点10で可能性の高い位置に居る。中国サッカーを楽しむ為から何か投稿しろと言わても、さて何を書けば良いものやら。誰も小生の文章に感動やユーモアを期待してはいないと思うので、今「サッカー」と聞いて、心と頭と口の端に浮かぶ事をまとまりも無く綴つてみる事にした。

(1) サッカーを始めたのは中学1年生。偶々兄貴がサッカーをやっていたと言うだけの理由で入部。以降、高校・大学・会社とずっとサッカー部に籍を置き、入社時には「サッカー部卒」で挨拶して変に納得された記憶がある。30代前半は「現役」から遠ざかっていたが、40才を目前にした香港駐在期間から再び「現役」復帰。自分の記憶と実際のプレーと体力の大きいなるギャップに悩みつつも、当地カタルで今でもボールを追つかけていられる。これからも元気で居る限り「お前は死ぬまで元気だ」との野次が聞こえそうだが) サッカーとの縁は続くと思う。

想い出の  
One Scene

### 中学大会決勝戦の記録

【評】延長前半の8分、舞岡が間接フリーキックを得た。倉崎のドリブルを、栄光のバックスが自陣ペナルティースポットの近くで妨害して生まれたものだ。ここで舞岡は斎藤が右へ低く出し、倉崎が飛び込んで決勝点を奪った。

試合は栄光ペースで始まった。3分、水沢のフリーキックを受けた高岡がノーマークとなって簡単に先取点。その後も細かいパスをつないで舞岡ゴールへ迫った。押されっぱなしの舞岡は、17分、北見がセンターライン近くから長く上げたパスを、斎藤がマーク二人をはずしてけり込み同点としたが、初シュートが14分というように密集する栄光バックスのつぶしにあった。しかし、結果的には栄光にとってはこれが裏目。攻撃の際に動き回るのはFWだけで、バックスの押し上げがあればという好機を再三のがした。

後半は舞岡が押し気味にゲームを進めた。しかしLW加藤がいい位置を占めているのに、中央にいるエース倉崎と角津ばかりにボールを集めて得点に結び付けられず、栄光も6分、8分とチャンスをつかんだが、攻撃が手薄で無為に終わった。両チームともいきいきとした速攻が見られず、決勝戦にしては盛り上がりを欠いていた。

(『神奈川新聞』より)

(2) 86年から90年までの4年間中国に駐在した。2002年のワールドカップ本大会出場を賭けたアジアBグループでも4戦して3勝1分、勝点10で可能性の高い位置に居る。中国サッカーを楽しむ為の一助としてサッカー用語をご紹介しておく。サッカーは「蹴球」ではなく「足球(スウチウ)」、極めて解りやすいネ

ミング。蹴つて楽しむのではなく足でするスポーツの意味か。或いは「FOOTBALL」の直訳か。FWは「先鋒(シエンフォン)」、MFは「前衛(チエンウエイ)」、BKは「後衛(ホウエイ)」、GKは「守門員(ショウメンユエン)」。CKは「角球(チアオチウ)」、FKは「任意球(レンイチウ)」、オフサイドは

「越位(ユエウェイ)」、ファールは「反規(ファンコイ)」。見事なプレーは全て「好球(ハオチウ)」。

(3) 最後に中国チームサポーターの応援決まり文句、「中国隊、加油(チヨングオトイ、チアヨウ)」。中国の参加が実現したら是非一緒に応援してやつて欲しい。

（4）現在衛星放送で各種スポーツ番組を楽しんでいるが、シーズンを迎えたサッカーの放映が目白押しだ。ヨーロッパではイングランド・イタリア・スペイン・フランス、南米ではアルゼンチン・チリ・コロンビアのリーグ戦が次々に放映される。その他にUEFAカップやワールドカップ予選各試合も逐次放映され、サッカーファンには堪らない。この中で一番夢中にさせられるのはやはり「プレミアリーグ」、中でもマンチエスター・ユナイテッドの試合であろう。ロングパス多用の単純明快な攻めや、攻守の切り替えの早さ、当たりの激しさ等は中学生の頃毎週楽しみにしていた「ダイヤモンドサッカー」の頃そのままである。

（4）湾岸諸国のアラブ人男性の服装は俗に「オバQ」と呼ばれ上から下まで白一

井口憲一 (FW)  
石井章雄 (MF)  
磯野光夫 (FW)  
越智重夫 (GK)  
加藤佳之 (DF)  
北島修二郎 (FW)  
栗原 聰 (DF)  
源間信弘 (FW)  
鈴木哲司 (FW)  
高岡明朗 (FW)  
高田智夫 (GK)  
坪山 亮 (FW)  
田村龍也 (BK)  
外池 仁 (FW)  
永井宏明 (FW)  
長友秀樹 (MF)  
新美 潤 (FW)  
二宮敏郎 (DF)  
治田克彦 (DF)  
牧田東一 (GK)  
水沢克介 (MF)  
道脇 光 (MF)  
宮 恭久 (DF)  
村山史雄 (MF)  
若林伸之 (DF)

#### 1972年の世相

- 2月 第11回冬季オリンピック札幌で開催
- 2月 連合赤軍あさま山莊事件
- 5月 沖縄の施政権返還、沖縄県発足
- 9月 日中国交正常化



入部直後、中学1年の22期

サッカーI	
△ 舞岡	(セイリョウサッカーチーム)
△ 荘光	
舞岡	0 1 延長 0 1
0 1 延長 0 1	0 0 長 0 1
1 桜	1 桜
【選手】	【選手】
高木 原井 浅井 木下 田中 伊藤 田中 伊藤	高木 原井 浅井 木下 田中 伊藤 田中 伊藤
柳原 鈴木 鈴木 田中 伊藤 田中 伊藤	柳原 鈴木 鈴木 田中 伊藤 田中 伊藤
八北 佐々木 石川 田中 伊藤 田中 伊藤	八北 佐々木 石川 田中 伊藤 田中 伊藤
▽PK 関根 0	▽PK 関根 0
▽PK 関根 0	▽PK 関根 0
▽PK 関根 0	▽PK 関根 0
▽PK 関根 0	▽PK 関根 0

いい試合で満足

○：栄光の監督はウエーバーさんという外人の先生。若いころはサッカーの本場、ブラジルでボールをけっていたそうだ。「私のところは一週間に一度の練習。時間にしたら三、四時間です。もっと練習できればいいのですが……。相手の舞岡とはこれまでファイフティー、ファイティーなので大差になるとは思っていませんでした」という通り、延長にもつれ込んでの惜敗。「残念でしたね」に「そんなことありません。どちらかが勝つのがスポーツです。いい試合でした」といかにも外人らしいことばが返ってきた。

## 舞岡、栄光破り優勝

●1970年8月15日付『神奈川新聞』より



【舞岡対栄光】延長前半8分、斎藤のフリーキックを倉崎がゴール、決勝点をあげる。キーパー高田①

色（因みに女性は「鳥天狗」と俗称される。ワールドカップ予選では、黒一色）。湾岸諸国では、同じくサッカーが国技に近いステータスと人気を誇っている。では、「オバQ」が会場を埋め尽くし（「鳥天狗」は殆ど観戦には来ない）、本当にスタンド一面が白一色になり、何とも言えぬ奇怪且つ圧迫感のある世界となる。天狗は、地元の選手でも前半の半ばを過ぎれば急ぎ水分補給に努める程ゆえ。

（5）サッカーの一一番の楽しみはやはり「試合に勝つ事」だと思う。疲れの中の勝利の余韻ほど気持ちの良いものはない。ではその為には一番大事なものは何か。個人的な技術やチームとしての戦術の向上は勿論大事だが、やはり手取りと戦術理解があれば、あとは体力で十分勝負できる。その実践者である小生が、体力の落ちた今痛感しているのだから絶対に間違いない。体力を馬鹿にせず、年代を問わず今こそ体力勝負を見直して欲しいと思う。

### 主な戦績

中学校  
全国中学校総合体育大会神奈川県予選  
→準優勝（栄光0-1舞岡）

高等学校  
関東高等学校サッカー大会神奈川県予選  
→3回戦敗退  
全国高等学校総合体育大会神奈川県予選  
→ベスト16（栄光0-1新城）  
全国高等学校サッカー選手権大会神奈川県  
→予選第4位  
神奈川県新人大会  
→ベスト8（栄光1-2相模台工業）

# 23 中期

We  
are

## 共に汗水流し一体感で結ばれる経験を、校舎でなくグランドで手に入れた

### 『なりそこねた野武士集団』

福田政之

「なあ、今日は休んじゃおうぜ」たしか中3夏休みの練習だった。ジリジリ照りつける太陽が恨めしかった。我々キーパーは、その日練習に遅れてしまつていた。

校門から講堂の階段の下あたりまで来ると、チームメイトがかんかん照りのグランドで練習しているのが見える。キーパーは誰がやっているのか？ バックスの相田か衣笠か、いやキヤプテンの窪田かも（本来のキーパー2人はバッグを持ったままここにいる）。そして次の瞬間我々は校門へとUターンしていた。サボつてしまつた。向こうからは見えていたとタカをくくつていたが、ズラかつた2人の姿を、レデスマ先生は見ていた。相当絞られたにちがいないが、そこはあまり覚えていない。ただ敵前逃亡！とでも言うべきこの時のシーンは、砂埃舞い上がる真夏のグランドを背景に今でも心の奥に停留したままでいる。

想い出の  
One  
Scene

### 『哀しき空振り』

中3の秋、我が期にとって中高を通じて唯一の晴れ舞台となるはずだった関東大会に出場した。場所は宇都宮市の総合運動場。その年の市大会では確か3位だったが、1位の舞岡中の監督推薦によっての県代表であった。

本戦は山梨の児玉中で、1—2であっさり敗退。せっかくここまで来たんだからと、急遽組まれた練習試合の相手は足利二中で、県2か3位のチームということだった。

開始早々から相手方の攻勢はすさまじく、当方は防戦一方。キーパーの出番は多くなり、比例してゴールキックも多くなった。この試合のキーパーは小生がやったのだが、もともと小生のプレースキックは全く飛ばず、都度バックスに蹴ってもらっていた。フルバックの川尻は、この日バックスとしてフル稼働、おまけに頻発するゴールキックまで面倒見させられへトへトだったんだろう。ゴールキックを空振りした。フェイントではない。足は完全に振り切られていた。小生はその姿を後ろからいたたまれぬ思いで見ていた。申し訳無い。だが彼は何事も無かったように蹴り直した。立派だった。試合は0—7の大敗を喫した。

その後高校のメンバーリストに彼の名前は無い。部をやめてしまったのだ。理由は聞かなかったが、あの時の空振りも一因だったんではと、今でも複雑な思いが残る。（福田）

高校1年の時だったか、朝鮮高校と練習試合をやることになった。オレギ先生が対戦相手を決めてきたらしかつたが、相手を聞いてチョットいやな気分になつた。県大会前の練習相手としては、強さ（テクニック以上にアタリ）は申し分なかつたろうし、我が期のチームカラーは、

よく言えば都会的で洗練されていたが（これは言い過ぎだな）、実のところは、アタリ負けし易く、深追いしない、クールなところがあり、そんなカラーを払拭させ、泥臭き野武士集団に再生させようという、オレギ先生の親心だったのかも（テクニック以上にアタリ）は申し分ない。

さて当日。試合開始前の挨拶の段、パ

F Wにしてハーフ、バックスまでも兼ねる最強ブレイヤー、そしてボンボンチムにあって唯一孤高の暴れん坊の榛沢がヤラレた。スライディングし横になつた彼の口を相手のスパイクが踏みつけたのだ。顎の骨を折る重傷で、その後数ヶ月間、戦線離脱となつてしまつた。と同時に23期サッカー部は以後、後輩24期生5人6人の助つ人を仰ぎながらからうじて命脈を保つのみとなり、結局、泥臭き野武士集団とはなれなかつたのである。

ボールを蹴りあつた仲間の音信もほとんどない今、振り返つて思うのは、当時のものはやかすみつある記憶に絡んでくあれから30年。

相田俊一 (D F)  
大井浩二 (D F)  
小原 博 (F W)  
加島 勝 (F W)  
川尻康晴 (D F)  
衣笠 孝 (D F)  
窪田守雄 (D F)  
鈴木正身 (G K)  
関口博之 (F W)  
田代 修 (F W)  
当麻美樹 (F W)  
浜 俊夫 (D F)  
榛沢広己 (F W)  
平野 操 (F W)  
福田政之 (G K)  
峯 作二郎 (D F)  
宮崎有弘 (D F)

1973年の世相

1月 ベトナム和平協定調印  
2月 円、変動相場制へ移行  
10月 第一次オイルショック



高校時代（23期8人、24期生8人とオレギ先生）



集合写真（中学）



0-7 大敗の後のバスの中で

## 主な戦績

### 【中学】

関東大会1回	二葉中	0—2	●
	足利2中	0—7	●
【高校】			
練習試合	朝鮮高校	0—2	●

るのはどれもサッカーにかかることがかりだ、ということだ。まともなサッカーなどしたこともない連中が集まり、先生、先輩達に鍛えられ、なんとかチームとして形ができていつたのも、ボールを蹴りあつて相手ゴールに入れる、単純明快なスポーツと共に汗水流していくという、シンプルな一体感で結ばれていたからだつたんじやないか。今となつては容易に経験しえないことを、校舎でなくグラウンドで手に入れていたんだなと、チヨイト感傷的になつてくる。

とは言つても、当時は、どうやつて手抜きをしようか、できるだけ楽して勝とう、なんてことをいつも考えていたし、後になればなるほど自分にかかる思い出は結構美化されていくもので、それを持ち出して後輩諸氏に提言などする不遜さは持ち合わせていいつもりだが、最後に一言。やはりズルはまずい。そして相手があることでどうにもならないこともあります。が、ケガに対して最大限注意する。されば好きなサッカーと思う存分楽しめるはずだ。

# 24期

We  
are

## 中学県大会三連覇の先陣を切つた

### 中学時代の 戦いの記録

(喜友名、不明)

○鎌倉大会準決勝

・栄光 4-0 大船

○鎌倉大会決勝

・栄光 4-1 御成

(得点者 宮野2、藤崎、不明)

・栄光 3-0 湘洋

(得点者 喜友名2、江崎)

・栄光 3-1 茅ヶ崎一

(得点者 清水2、江崎)

・栄光 0-0 寒川

(得点者 清水3)

・栄光 3-2 御成

(得点者 清水)

・栄光 1-0 藤田

(得点者 平田)

・栄光 1-0 白山

(得点者 江崎)

・栄光 1-1 大野南

(得点者 宮野)

・栄光 9-0 神田

(得点者 喜友名2、清水2、江

崎2、鈴木伸、高橋、不明)

・栄光 3-0 上溝

(得点者 江崎2、不明)

・栄光 2-2 日吉台

(得点者 喜友名)

(得点者 鈴木伸)

天野克則  
宇都宮俊明  
江崎裕志  
太田肇  
大橋周一  
加藤元彦  
川瀬弘一  
官野耕一  
木村昭夫  
喜友名朝彦  
熊谷保之  
清水均  
杉本信幸  
鈴木紳一郎  
鈴木伸幸  
鈴木祐司  
高橋忍也  
立石哲也  
土屋喜嗣  
西村俊輔  
浜千尋  
榛澤信太郎  
平島寛  
平田一郎  
藤崎哲也  
丸田裕之  
山内弘行  
山田敏博

尚、「新人戦」と「総体」の間に、

全国大会予選が行われ、この時も新  
人戦同様、県大会準決勝で、岩崎中  
学に1対2で敗れている。このチ  
ームは46年度の鎌倉市内大会で優勝し  
て以来、常に好成績を収めていたが、

関東大会、全国大会という、県を越  
えた大会に進出することができなか  
つた。

ただし、23期主体のチームが関東  
大会に推薦出場した際に数人がメン  
バーに選出されており、この時は児  
玉中学に1対2で敗れている。

以上の資料は『EIKO NEW

S FLASH』からのものである  
が、「全国大会予選」の記事が掲載  
された号が見当たらなかつたため、  
割愛した。

また、24期の中学校における戦績  
については昭和49年頃に発行した青  
刷りの『DASH』にも記載した記  
憶があるが、残念ながらこれも紛失  
して見当たらない。

1974年の世相

2月 消費者物価暴騰。この年のGDP、戦後初のマイナス成長

12月 田中角栄内閣総辞職  
W杯第10回西ドイツ大会、地元  
西ドイツ優勝



高校時代。左端にオレギ先生



中学県大会優勝の記念撮影。左から2人目がウェーバー先生

# We are 25期

# 中期

## 中学時代の公式戦「30戦 26勝 3敗 1分」の全記録を発見！

### 中学最強？ 25期サッカー部全記録

真道哲哉

昔の事を書くにあたって、家の中を掘り返してみたら、すっかり忘れ去られた色々な物が出てきた。

レデスマ先生からの手紙、県大会優勝

のペナント、セビア色に変色した神奈川新聞の切り抜き……。

その中でも一番の発見は、自分で記録していた中学時代の全試合のデータが残っていたことだ。

榮光学園サッカー部に入部したのはも

う30年以上も前なのに、記録を見るといつかの試合はまるで昨日の事のように甦ってくる。舞岡中の文化祭に3年生と共に招待されたデビュー戦。相手のパワーに驚いた朝鮮中の試合。FW5人のWMシステムで臨んだ初めての大会。逆転で勝った灼熱の鶴沼戦。そして2度の県大会決勝。僕が色々エピソードを書くよりも、久しぶりのこの記録をよく見てほしい。そして思い出して欲しい。相手

のシユートを体を張つて止めた瞬間を、ベンチからチームを叱咤し続けたあの夏休みを、レデスマ先生に怒られたハーフタイムを、ウェーバー先生の妙に足が長く見えたジャージ姿、オレギ先生に塗つてもらったヨーチンの痛み、そして、全身全靈を入れたゴール・ゴール・ゴールの山を。

1971	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	舞岡	舞岡(舞岡中)
1972	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	湘洋(湘洋中)	
1—2	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	大正	
1—2	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	鎌倉一	
【中3】	大正	大正	大正	大正	大正		

1—4	栄光	(B)	栄光	栄光	栄光	栄光	湘洋
1—3	1—0	0—0	1—1	1—1	1—0	1—0	御成
御成			大船	慶應	明治	大船	
			鎌倉一	腰越	鎌倉学園		
			（藤沢一中）	ひばりヶ丘			
			保谷(保谷中)				

(大正中)

新人戦兼関東大会予選、県準決勝	2 / 11	2 / 4	1 / 21	1 / 15	1 / 9	1 / 7	1 / 3	12 / 27	11 / 26	11 / 19	11 / 12
栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光	栄光
2 — 3	5 — 0	0 — 0	2 — 1	2 — 2	4 — 0	2 — 0	4 — 0	6 — 0	7 — 0	11 — 0	1 — 4
舞岡(追浜中)	(藤沢一中)	湘洋	茅ヶ崎一	（藤沢一中）	保谷(保谷中)	（保谷中）	ひばりヶ丘	大船	慶應	鎌倉一	御成

赤石健司 (FW)  
秋葉剛男 (FW)  
池田 靖 (DF)  
石川博一 (FW)  
石黒哲夫 (FW)  
石渡哲生 (DF)  
奥山 透 (MF)  
小倉健介 (MF)  
栗山恵介 (MF)  
黒田浩史 (FW)  
古山文男 (DF)  
坂元信之 (FW)  
鈴木啓一 (FW)  
高岡昌彦 (DF)  
高田 創 (MF)  
田中竹延 (FW)  
田中 浩 (DF)  
堤 康徳 (FW)  
角田 誠 (DF)  
名川 誠 (GK)  
南條 宏 (DF)  
二宮嘉健 (MF)  
秦 孝之 (GK)  
端山雅之 (MF)  
平野 忠 (FW)  
福沢諭吉 (FW)  
福永一樹 (MF)  
真道哲哉 (GK)  
三浦憲司 (DF)  
森村佳弘 (MF)  
吉田耕也 (DF)  
与田秀二 (FW)  
和田卓也 (FW)  
和田裕之 (HB)

### 1975年の世相

4月 ベトナム戦争終結  
7月 沖縄海洋博開催  
11月 第一回先進国首脳会議



## 神奈川中学総体優勝カップを手に記念撮影



全国大会県予選決勝。2点ビハインドで迎えたハーフタイムにウェーバー先生の指示を受ける

3年間で48戦35勝8敗5分！  
公式戦に限れば、30戦26勝3敗1分!!  
時は流れ、みんな40代のいいオジサン  
になってしまったけど、胸を張って言お  
うよ、  
「俺たち、スゴいチームだつたんだぜ！」

**[注]**（ ）は試合会場。記入なしは全て栄光グラウンド。日付があるのは全て公式戦。★は公式戦だが、日付不明のもの。

# 26 中期

We are

## 汗にまみれ埃にまみれ泥にまみれ、その他もろもろにまみれまくっていた日々

### 雨の黄金時代

鈴木勝秀

あの頃のサッカー少年は、ブラウン管越しに見る世界の一流選手の一挙手一挙動はもちろんのこと、その選手がプレーしている競技場の、きれいな幾何学模様の刈込跡のある鮮やかな緑の芝生に憧れた。いつかそんな芝生の上で自分もプレーするんだと誰もが夢見ていた。

さて、その少年たちが当時走りまわつておりましたグラウンドのコンディションは、もちろん「土」のグラウンドの話ですが、学校によつてまちまちでありますし、ピッチヤーマウンドがある野球兼用で野球部との時間交代制だつたり、砂撒きやいいくつてもんではないでしょといふやうな最低のグラウンドも少なくなかつたのであります。

しかも、ボールは今のように安価ではなく、公式戦には新品を用意するという訳にもいかず、水を吸うと極端に重くなり

泥を含んで泥色の塊になり、ヘディングすると頭が割れそうになるという類のものがありました。

70年代前半といえばクラウド率いるオランダのトータルフットボールが一世を風靡しておりましたが、一方、学校教育サッカーは、キック&ラッシュやセンタリング一発のアーセナルゴール型攻撃が

主流のまま原始的なものでありますて、ロンパンとか、リーゼントのツツパリとか下品な方々もたくさんいました。

そういう中で、我々のチームは、4—3—3システムを導入し、中盤を厚くしてショートパスを繋ぐという栄光の伝統的戦術を採っていたのですが、これは、当時監督だったブラジル人のウェーバー

神父の功績によるところであつたという話になつておりますが、要はあんまり体力に自信がないという我々のチーム体质に合致していたのであります。

その頃の相手の中には、キックの飛距離で中心選手を決めていたり、ずーっとタッチラインの外にいて何やつてるのかと思つたら、隠れてボール待つてるんだつていうワインディングとかいましたし、そういう相手に對して、1タッチ、2タッチでボールを回していく戦術は時として非常に有効だったような気もします。ところがその反面、グラウンドコンディションに影響され易く、グラウンドが悪いと分が悪くなりました。

すなわち、我々は雨の日の試合に弱かつたのであります。

我々が中学全国大会神奈川県予選を勝ち残り決勝戦に進出、優勝すれば県代表として全国大会出場ということ。決勝の相手は横浜の市場中学、名前からして田舎臭いサッカーしそうな感じがしておりました。決勝戦を前に急遽彼らから、はたまた協会からか、教育委員会からか、本来予定されていた決勝戦の日が彼らの

相田二郎 (DF)  
石井治之 (DF)  
岡田 潤 (MF)  
小沢淳一 (GK)  
押本正彦 (MF)  
落合裕之 (DF)  
加賀山曜 (MF)  
金子和彦 (MF)  
小林寿也 (FW)  
笹島章弘 (GK)  
下村 肇 (MF)  
庄司 敦 (MF)  
鈴木勝秀 (MF)  
高瀬芳典 (GK)  
高島一郎 (MF)  
高橋 瞳 (DF)  
堤 伸幸 (MF)  
中村 徹 (DF)  
橋本嘉一 (FW)  
藤原 明 (FW)  
藤原 敏 (FW)  
二見 一孝 (DF)  
松岡 達男 (FW)  
松本 直樹 (MF)  
水野 克彦 (FW)  
三宅 孝司 (DF)  
山田洋之助 (FW)  
山根 啓 (MF)  
山本良一 (DF)

1976年の世相

7月 米バイキング1号火星に軟着陸  
1月 周恩来、9月毛沢東没  
「オックスフォード英語辞典」に  
「フーリガン」初収載

想い出の  
One Scene

### ウェーバー先生の坊っちゃん刈り事件

サッカー選手のファッショーンは見ていて楽しい。だから、真似したくなる。中田英寿のファッショーンがどれほど若者に影響を与えていることだろう。我々の頃は、ジョージ・ベスト、ギンスター・ネッター、ヨハン・クライヒに代表される長髪が主流だった。

しかし、義務教育における、体育の場ではそんなことは許されない。誰が決めたのか、試合に出場するには、頭髪が眉または耳にかかるといけない、という規定があったらしい。

公立校は、そんなことは問題にならない。基本的に坊主なのだ。だが、我々はレギュラー3人がそれにひつかつた。審判は、あくまで試合に出さないと主張。

そこで、ウェーバー先生登場。

「ワタシが切りましょう。ヘアカットの経験あります。ハサミ！」

試合に出場するためには、それを受け容れるしか手はない。結果、グラウンド脇で驚異の坊っちゃん刈りにされた3人。眉と耳にかかるないように直線的にカットされた髪。大笑いのチームメイト。3人の怒りの矛先は試合しかなかった。もちろん、試合は大差で勝利しました。（鈴木記）



1977年6月5日、高3記念祭招待試合（1FCケルンを模した卒業記念ユニフォームにて）



中学時代。体育館脇のサブグラウンドにて

相手が栄光に乗り込んできた決勝戦の日は朝から土砂降りでありまして、グラウンドは田圃の様になつておりました。栄光も決していいグラウンドではなかつた訳です、雨の日はグラウンドが荒れるからという理由で、サブグラウンドでしか練習させてもらえないこともあります。泥だらけになりながら1-1で迎

た。相手が栄光に乗り込んできた決勝戦の日は朝から土砂降りでありまして、グラウンドは田圃の様になつておりました。栄光も決していいグラウンドではなかつた訳です、雨の日はグラウンドが荒れるからという理由で、サブグラウンドでしか練習させてもらえないこともあります。泥だらけになりながら1-1で迎

た後半終了間際、相手はコーナーキックからヘディングで泥色の塊を我々のゴールに突き刺したのでした。ヘディングボールを強く蹴ることができそれをヘディングでくる固い頭の奴等なんだと。我々は1-2で敗退したのであります。悔しくて泣きました。全国大会へ行ってれば、芝生の上でサッカーできたのですから。

なお、我々は敗戦翌日から蹴りと頭突きを鍛え直し、その後の県中学総合体育大会で24期から続いていた三年連続優勝を果たしました。

30年近く前の出来事とはいえ、三年連続優勝は快挙であつてしかるべき、まさに栄光中学サッカー部の黄金時代と言えたであります。対岩崎中学との決勝は神奈川新聞にも写真入りで大きく載りましたが、中学生の大会としては、県内で初めてテレビ放映されました。TVK／録画放映、あのテープまだどこかに残っているのでしょうか、もしご存知の方おいででしたらぜひ26期までお知らせ下さい。

## 主な戦績

### 〈中学〉

- ・中学全国大会神奈川県準優勝  
対市場中 1-2 敗退
- ・神奈川県中学総合体育大会決勝  
対岩崎中 2-0 優勝（3年連続4度目）

### 〈高校〉

- ・関東大会神奈川県決勝リーグ  
厚木、県鎌、東、栄光の順で4位
- ・全国大会予選 対湘南敗退
- ・新人戦 対相工大 0-2 敗退（ベスト16）
- ・関東大会 対茅ヶ崎PK戦敗退（ベスト32）

# 27期

We  
are

## 中学県大会「4年連続制覇」の夢は破れたが……

### 幻の同点ゴール

久村俊幸

中学3年の新人大会、26期まで連続3年県大会優勝、われわれ27期も大会優勝を目指して地区大会に臨んだ。順調に鎌倉予選を通過、いよいよ最大の難関、夏の県大会の優勝校、末吉中学との一戦となつた。末吉中は、大友、尾崎という全国ジュニア選抜のメンバーを抱えており、技巧・戦術で当時の神奈川県では頭ひとつ抜け出していた。

25年以上も前のこと故、試合の経過は詳しく述べては覚えていない。一方的に攻められたわけではないが、なかなか得点チャансも奪えない。膠着状態が続いたが、前半終了間際、相手シュートをクリアしたボールが、ゴールライン際を転々、コーナーキックになるかと思い、一瞬集中が切れる。ところが、ボールをすばやく詰められ、センタリング、体制が整つていなかるところへ先制点を決められてしまつた。

後半に入り、栄光がボールを支配でき

る時間も増え、いくつか惜しいチャンスも続く。そして、伸一（？）のミドルシュートがキーパーを襲つた。

同点かと思われたが、キーパーが横つ飛びにキャッチ。残念と思われた瞬間、

M.F長野がキーパーに向かつて突進した。栄光生の日ごろの信心が通じたのか、横つ飛びしたキーパーが着地の際にボールをこぼした。すかさず、長野がゴールにけりこむ。やつたー、同点！と思いつき

や、審判の判定はキーパーチャージ（後日相手キーパーに確認したが、明らかに誤審であった）。試合はそのまま1対0で敗れ、4年連続優勝の夢は敗れたのであつた。



引退後、ユニフォーム姿で集合



高校時代の練習



中学集合写真

相原 達 (MF)  
岩村 力 (GK)  
井上了介 (GK)  
後川彰久 (MF)  
岡部 信 (GK)  
奥村昌司 (MF)  
菊池智久 (BK)  
北風 勝 (MF)  
久村俊幸 (BK)  
(高校主将)

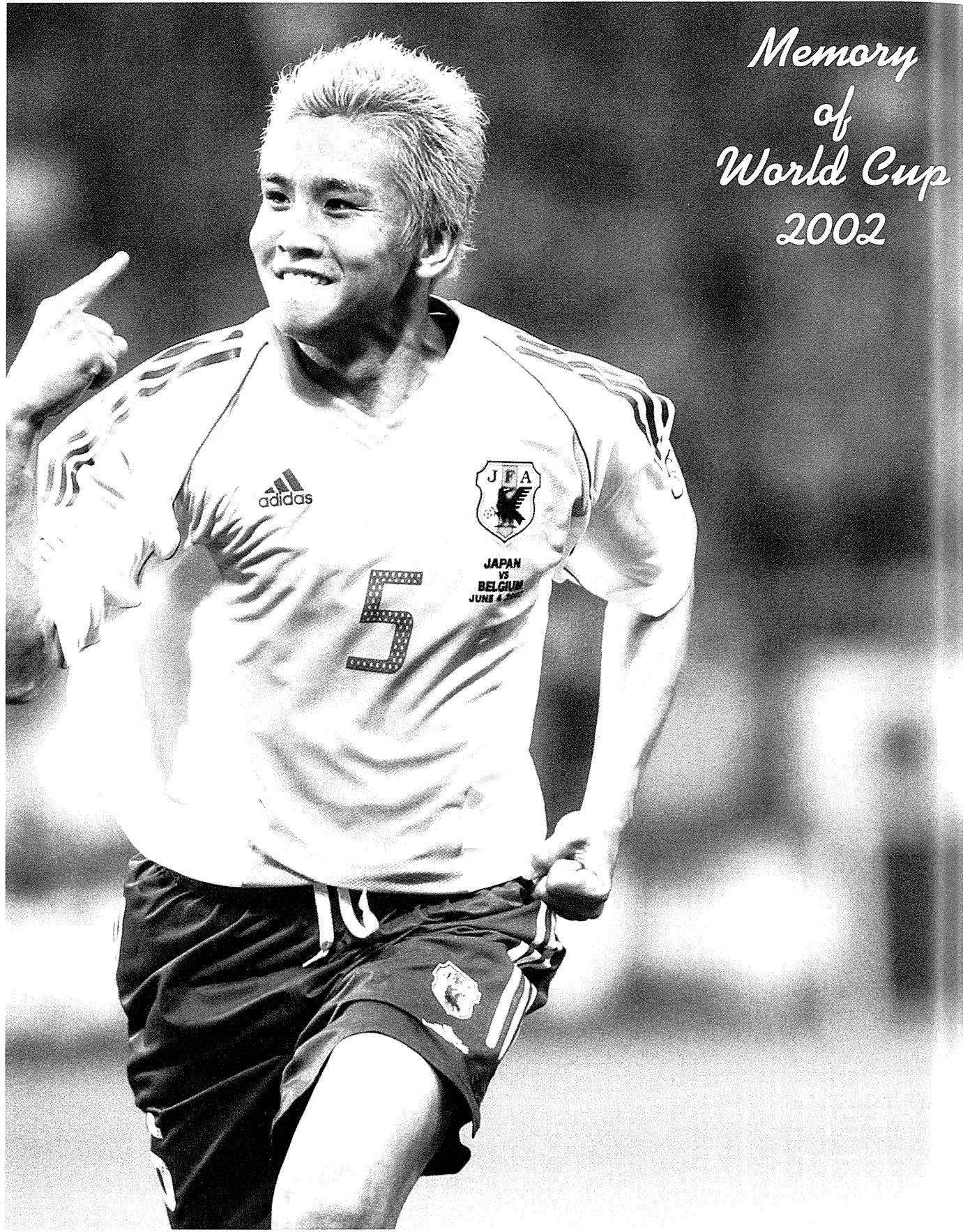
酒井俊彦 (MF)  
榎原秀也 (MF)  
鮫島隆太郎 (MF)  
菅沼一男 (FW)  
鈴木正一 (MF)  
鈴木伸一 (FW)  
谷田信夫 (BK)  
手塚 勝 (BK)  
長野 敦 (MF)  
平島 大 (MF)  
堀田英夫 (MF)  
堀内英樹 (BK)  
松澤大介 (BK)  
(中学主将)

松本 創 (BK)  
松本浩司 (MF)  
真辺篤孝 (MF)  
(マネージャー)  
三沢正弘 (BK)  
矢野博巳 (FW)  
山根正裕 (FW)

1977年の世相

1月 日本赤軍ダッカ事件  
8月 中国、文革終結宣言

*Memory  
of  
World Cup  
2002*



© J M P A

28  
期

We  
are

## ブラジル、スペイン出身の両先生に董陶を受けたラテン・サッカー

僕たちが、「ダイヤモンドサッカー」に熱中していた頃

矢野晴巳

ようなシステムに大いに衝撃を受け、興奮したものが、それすら今や隔世の感がある。

海外情報量の急速な拡大とアクセス改善にも圧倒される。今では、BS放送などで世界中のサッカーをリアルタイムで観戦できることは当たり前だが、当時は東京12チャンネルで毎週1回放映されてい

た「ダイヤモンドサッカー」が、ほぼ唯一の海外情報源であった。番組が待ち遠しく、毎回ワクワクしながら画面を食い入るように見ていたことを懐かしく思い出す。

さて、総勢20数名から成る我々28期サッカー部は、中学ではブラジル出身のウエーバー先生、高校ではスペイン出身の

オレギ先生より主たるコーチングを受けた。サッカーを教育の一環と捉え、試合に遅刻した者はたとえレギュラーといえどもサブに回した信仰心篤いウエーバー先生。バスケット人の誇り高く、医務室やスペイン語の選択授業でお世話になった者も多いオレギ先生。両先生の強烈な個性は今も強く心に焼き付いている。情熱をもつてサッカーの楽しさを教えてくれた両先生には、本稿を借りて改めて深く感謝したい。

サッカースタイルという観点では、ブラジルならばにスペインご出身の両先生の董陶を受け、我々はショートパスとテクニック重視の南米型サッカースタイルを好んだ。逆に、体力勝負のキック＆ランシュ型の戦術を極めて不得手とし、とりわけ雨天で全くの泥濘状態と化したグラウンドでは、良い試合結果を出せた記憶があまり無い。

部活動については、ウエーバー先生直伝の「ブラジル体操」や、通称「アマゾンボール」と呼ばれたブラジル直輸入の摩訶不思議な色とデザインのサッカーボ

安部好隆  
生田考尚  
石井尚隆  
井田和久  
悦田隆  
海老塚健  
大石大久保知彦  
大蔵一真  
太田勝  
大塚武生  
荻原洋  
落合秀紀  
金子康  
金田正巳  
鎌尾義明  
木村俊一  
国富正樹  
小林真  
佐藤篤  
眞田和男  
杉本正樹  
竹中忠宏  
田中淳夫  
手塚正彦  
中村勇樹  
南雲正彦  
名和剛  
矢野晴巳  
湯越隆

想い出の  
One Scene

### 2つのPK戦

手塚正彦

サッカー部の想い出のシーンとして、中学・高校とも、県大会ベスト4に進むチームにPK戦で敗れたことが記憶に焼きついています。28期は、中学2年から3年の春まではほとんど負けたことがなく、3年の春の練習試合では、前年秋の県新人戦で優勝した原中学に3対0で快勝していました。ところが、急な監督交代や我々の気の緩みもあったのか、本大会で原中と再度当たり、2対2（前半0対2）の同点でPK戦となり、私が外した以外両チーム全員が決めて結局4対5で敗れました。このときのキーパーに止められる瞬間は今でもスローモーションのように鮮明に覚えています。

また、高校の時も、慶應高校と当たり、0対0でPK戦となりました。27期の先輩との混成チームでキッカーは大勢いたのですが、「蹴るか」と言わされた時に、中学の時の記憶が蘇って「蹴ります」とは言えませんでした。結局PK戦で負けましたが、センター・サークルでチームメートが外す瞬間に、自分が外したかのように見ていたことを思い出します。今も時々サッカーをしていますが、今だにPKは苦手です。今となっては良い思い出ではありますが、原中も慶應もベスト4に進んだので、「もっとPK練習しつければよかった」と後悔が残り、サッカーを始めた息子（小学校1年）には、PKを叩き込んでいます。

中学時代の1974年、天才ヨハン・クライフ率いるオランダが「トータル・サッカー」を旗印に、西ドイツW杯の舞台に華々しく登場したことは鮮明に覚えている。古典的な4-3-3システムに慣れ親しんでいた我々は、その渦を巻く

1978年の世相  
5月 成田空港開港  
8月 日中平和友好条約調印  
W杯第11回アルゼンチン大会、  
地元アルゼンチン優勝



ゴール裏に全員集合



「ブラジル体操」のウェーバー先生と

振り返れば、サッカーという共通項を通じて多くの友人を得たことが、6年間の栄光学園生活における最もかけがえの無い財産だったとつくづく思う。揃いながら、中高時代の友人というのは不思議なもので、いくつになつても、会えばごく自然に時間が当時にワープしてしまつ。卒業以来すっかりご無沙汰している者もいるが、其々の道で元気に頑張つているに違ひないと思わずにはいられない個性派揃いなのである。

一方、ウサギ跳びでのグラウンド一周ラック内の芝生でいつも行つていた小ゲームである。脱いだシャツや運動靴をゴルフに見立て、昼休み・放課後を問わらず、時間の許す限り裸足でボールを追いかけていた。あちこちが引き千切れ、汗と草と泥にまみれたトレパン姿は、サッカー部員のトレードマークであった。

根っからのサッカー好きが多かつた同期には、今でもサッカーを続いている者が少なからずいるようだ。但し、最近気がかりなのは、張り切り過ぎて怪我をする者が増えていることである。いくら気は若いとは言え、もはや四十代。「往年の名プレー再び」とはなかなか行かなくなつてゐるのが残念だ。

中高時代の友人といふのは不思議なもので、いくつになつても、会えばごく自然に時間が当時にワープしてしまつ。卒業以来すっかりご無沙汰している者もいるが、其々の道で元気に頑張つているに違ひないと思わずにはいられない個性派揃いなのである。

一方、ウサギ跳びでのグラウンド一周や、試合中の給水制限（水を飲むと疲れるとされた）等、現代スポーツ科学に反するトレーニング手法が残つていた時代でもあつた。

部活動以外で思い出深いのは、陸上トラック内の芝生でいつも行つていた小ゲームである。脱いだシャツや運動靴をゴルフに見立て、昼休み・放課後を問わらず、時間の許す限り裸足でボールを追いかけていた。あちこちが引き千切れ、汗と草と泥にまみれたトレパン姿は、サッカー部員のトレードマークであった。

根っからのサッカー好きが多かつた同期には、今でもサッカーを続いている者が少なからずいるようだ。但し、最近気がかりなのは、張り切り過ぎて怪我をする者が増えていることである。いくら気は若いとは言え、もはや四十代。「往年の名プレー再び」とはなかなか行かなくなつてゐるのが残念だ。

中高時代の友人といふのは不思議なもので、いくつになつても、会えばごく自然に時間が当時にワープしてしまつ。卒業以来すっかりご無沙汰している者もいるが、其々の道で元気に頑張つているに違ひないと思わずにはいられない個性派揃いなのである。

振り返れば、サッカーという共通項を通じて多くの友人を得たことが、6年間の栄光学園生活における最もかけがえの無い財産だったとつくづく思う。

28期の友人達と、栄光学園サッカー部のますますの活躍と発展を心から願いたい。

# 29期

We  
are

## 「お笑い！頭脳プレー」に徹しためちゃくちや楽しいサッカー集団

### 「奔放なプレーヤーたち」

升本喜郎

僕がサッカーをしなくなつてから、もう何年になるだろうか。体重の激増と肉離れ、体力の低下。走れない、ボールは取られる、もうサッカーは沢山。だが、何故か、ふと思つことがある——いつか、もう一度、思いつきり、サッカーをしてみたい、と。

僕らが栄光に入学したのは26年前。当時のサッカー部は、高3の24期から高1の26期まで中学で神奈川県3連覇、その伝統を受け継いだ中3の27期、中2の28期の先輩たちも、神奈川県下の強豪として君臨していた。当然、僕らもそうなるはずだった。しかし……多くは語るまい。主な戦績はと問われて、さしたる覚えがないという程度のチームだったことは確かだ。だが、勝てなくとも、僕らのサッカーはめちゃくちや楽しかった。

当時のポイントは、週2回だけの練習で体力的なハンデをいかに克服するかとこと。シロウトなら体力不足を補う

ために、各自、放課後トラックを何周もするというトレーニングを考えがちだが、僕らが出した結論は「頭脳プレー」。しかし、断つておくが、本当の頭脳プレーは確かな技術の裏付けがあつてこそ有意なものとなる。悲しいかな、僕らにはその技術もなく、「頭脳プレーを装う」ことに終始した。幸い、我が校は学業の

荒井俊之  
飯田 豊  
五十嵐千秋  
市川健太  
岩佐洋一  
植木俊介  
内田敬二  
有働智一郎  
大塚伸朗  
小関智昭  
片平修一  
金丸知明  
佐藤文一  
佐藤政男  
田代邦彦  
千田亮平  
辻 毅  
橋本徹  
廣瀬直人  
保坂孝信  
前田 順  
升本喜郎  
松原秀樹  
矢加部 茂  
築 慶幸  
吉田耕太郎  
吉田敏彦

1979年の世相

1月 米中国交回復  
1月 カンボジア、ポルボト政権倒れる  
イラン革命による第2次石油危機

方は県下有数の進学校だつたし、サッカーでもまだすかに技術の確かな強豪校というような雰囲気を醸し出していたため、この作戦は思いのほか有効だった。

まず、試合前、センターラインに並んでじやんけんでボールかコート・サイドを見るところ、文字通り、サッカー部さつ

ての秀才だつたと思うが、じゃんけんをする前に、同じく理系のゴール・キーパーの有働智一郎あたりに、「 $4\pi r$  の二乗」とか全くデータラメなことを言って、いつもグーを出す。そうすると、理由はわからぬのだが、相手方チームのキャプテンはチヨキを出して、必ずと言つていいほど、僕らは主導権を握れた。

試合が始まつてからも策を弄した。左M.F.だつた飯田毅の発案だつたと思うのに、「じゃ、33447」とか、暗号のような数字を叫んで蹴る。チームとしての約束事（例えば、左ワインディングの吉田敏彦がニアに走りこむとか、C.F.の築佐洋一あたりが「もうちょっと強く蹴つくながら、その実、何もない。ただ、数字を叫んで蹴るだけである。M.F.の岩

しそうに言えば、次からは、敵も「こいつら頭良いから、セット・プレーに注意しろ」とか言つてくる。

それから、PKのときも約束事があつ

### “神の手” ゴール

大塚伸朗

我々29期を中心とした代は、あまり、大した戦績を残せなかつたので、残念ながら、優勝を決めたとか、これが運命を分けたといった試合やゴールといったカッコイイ「思い出のシーン」の記憶はほとんど無い。そんな中、ひとつ思い出に残っているゴールがある。新人戦のある試合で、M君が決めた1点目である。

センタリングに飛び込み相手ゴールキーパーと競りながら決めたのであるが、今でこそ言えることだが、そのゴールは、彼の頭ではなく、彼の手によってゴールに叩き込まれた…である。その何年後かに、アルゼンチンの神様、かのマラドーナが、メキシコワールドカップのイングランド戦で決めた、「神の手」によるあの有名なゴールは、実はこのゴールを真似したものである——という事実を知る人は少ない。本人は、それがゴールと認められるとは思わなかつたのかもしれないが、そこはチームワークのよさ、チームメイトのI君が、「やったー！」と喜びながら、M君のもとに祝福に駆け寄り、めでたく主審もそのままゴールを認める運びとなつたのである。「思い出のシーン」として語るには、ちょっと迫力がないが、そんな29期でも、自慢のいいチームであった、と私は思う。

想い出の  
One Scene

それから、PKのときも約束事があつ



(上) 高校時代の練習風景  
(左) ユニーク・キャラクターが集合

た。これも飯田の発案だ。ペナルティ・スポットにボールを置いて、後ろに下がり、キックの助走をする前に、胸の前で十字を切り、神に祈つてからボールを蹴る。信者でない人間の方が多いが、この作戦のおかげで、PK戦までもこれなんだ日大藤沢戦、湘南通信戦をものにしたことだけは鮮明に覚えている。

上品な学校が相手だと、ワン・プレー毎に、DFの千田亮平あたりが、「こいつら、大したことないぞ」といつて相手を威嚇していたのに、少し怖い学校が相手だと、DFの金丸知明、松原秀樹、辻毅あたりが、無言で淡々と闘志満々のプレーに徹し、使い分けていた。

とまあ、思い出すだけでも楽しい。その他のチーム・メイトでは、電撃ドリブルの火の玉ウェーブング小閑智昭、高校から入部した小学校時代のサッカーの名選手アラウジ井俊之、昼休みに汗をかきかき教室に戻つてくる僕たちを見て感激しバレーボールから転部してきた市川健太、ねちっこい堅実な守備のDFツル植本俊介、どのポジションでもこなせる万能選手内田敬一、頭から突つ込むガツツ・プレーの片平修一、数学の神様佐藤文一、扁桃腺炎をこじらせながら高三の夏までプレーを続けたキー・パーの佐藤政男、ごつあんシユートのテクニシャン田代邦彦、独特のストッキングのしぶといMF橋本徹、体をするつと入れ変える技が光った廣瀬直人、俊足FWペヤング保坂孝信、チームきつてのムード・メーカーワイン

グの前田順、液体シュート（どんなシュートか誰も知らない）の矢加部茂、名門山王谷SC出身のハードタックラー吉田耕太郎。今となつては、皆、懐かしい。もしかしたら、僕は、もう一度、思い

## PKを俺に…

田代邦彦

陽が暮れかかった二子玉川のサッカーランドで38歳になる私は、うすくまつて倒れこんでいた。「大丈夫ですか」とやけに体ががっしりとした相手チームの若者が、心配そうに声を掛けてきた。そのまま、相手チーム数人にかつがれグランドの外にでた。会社の後輩は、遠巻きに私を見ながら「まだですか」とつぶやき、運んでくれた相手チームに「いつものことですから」とそつと耳打ちをしていました。試合も後半に差し掛かると起ころう。

奴らにはわからないのである。38歳で35分ハーフの70分間を走りまわるつらさが。そして、頭の中では、栄光のグランドでのプレーをイメージしているのに、体がついていかないはがゆさが（自分のイメージでは3回フェイントをいれているのに、体がついていかないボルの上でただ体を揺すっているだけらしい）。現役の頃のあの華麗なステップは、どこにいってしまったのだろうかと悔しい思いがつのりつ意識が薄れていった。

話とは、22年前にさかのぼる。高校1年の初秋。山手学院との練習試合。その日はすこぶる調子が良かつたと記憶している。前半15分、左利きというだけでレフトウェーブのレギュラーだった飯田からめずらしく良いセイタリングが上がった。右足のサイドで押していたのか定かでない。

ついで、サッカーをしてみたいのではなく、高校時代に戻つて、あの「自由奔放」も一度グランウンドで一緒にボールを蹴りたいだけなのかも知れない。

込もうとしたが、何故か右足のアウトサイドネットを揺らした。後半に入つても体は動いていた。10分過ぎ、クラ爽を尊敬していた副キャプテンの升本からセントターリングが上がった。やけに高い球だった。ボールがどんどん自分の方に近づいてくる。頭を合わせた。ボールと一緒に自分もゴールネットを揺らした。まわりは、「さわらなくとも入つていたぞ」と言うが、わかつていい。これが「いつものことですから」とそつと耳打ちをして、終了間際、オフサイドをかいくぐりキーパーと1対1の場面をむかえた。「よしつ、ハットトリックだ」と心の中で思った瞬間、キーパーと接触。私はグランドの外で横たわっていた。横目でゴールエリアの方を見ると誰がPKを蹴るかでもめていた。そして私は声を振り出すように叫んだ。「俺にPKを蹴らせろ」――。

目が覚めた。会社の後輩が馬鹿にしたように笑く。「自分で勝手に倒れたのにPKのわけないじゃないですか」そしてあきれ果てた口調で言い放った。「さあ、あと15分ですからがんばりましょう」と。こいつら俺を殺す氣かと思いつつ、今度はどうやって倒れるかを考えながらピッチの上にたつた。終了間際、再び私の体がゴールの後ろで横たわつていたのは、言うまでもない。ただ今だにあの試合でPKを蹴つたのか、そのまま横たわつていたのか定かでない。

# 30期

We are

試合にはあまり勝てなかつたけど、個性派揃い

おう、まあな

上原裕之

上原  
中学入った時、20人だけ?

宮川  
高校卒業の時14人、根本さんは高

校からで、小林ツネさんと内山く

んと益子さんと宮永さん、それか

ら宮崎猿がやめちゃつた組で、浅

尾さんと泉田さんが転出ですね。

山田  
よく覚えてるなあ。俺も留年して

西條  
たらカウント外だつたな、あはは。

最初バスケットでインサイドキ

ックかなんかやらされて、さびし

かつたな。

小泉  
で、中2からアルカラだべ?

野村  
あんまりサッカー教わつた覚えね

えよな。

金兵  
相手の後ろからアードかオーダか

かよお。

藤田  
それよりよお、浅輪の姉ちゃん女

子マネにしようとしてたじやねえ

どうでもいいだろ。で、次はレデ

スマ。  
上原  
やたらでつかく蹴れ、ばっかだつ  
たな。

藤田  
おめえはいいけど、俺ら練習や  
らなくていいって言われてU字溝  
の中で寒さに耐えてたんだぜ。

数人  
俺も俺も。

黒田  
何言つてるかわからなかつたも  
ん。

島崎  
ナニスルカーオマエハーハーはしょつ  
ちゅう言ってたぜ。

増木  
スイトリシキシキとかあつたな。

山田  
次、オレギさんだよね? 川辺も何  
か言えよ。

川辺  
おう、まあな。

浅輪  
オレギもよかつたけど、高1でい  
なくなつちやつしなあ。

山田  
で、官野さん来てくれてさ、よく  
やつてくれたよな。なかなかいね  
えぞあんな人。

西條  
官ちゃんと結構太かつたよね。

根本  
西條そのころ今よりは細かつた  
だよね。人のこと言えないけど。

根本  
根本のタックル、捨て身でこわか  
つたよね、人壊すの快感だつたで

しょ。  
小泉  
捨て身つて言やあ、黒田だべ、超  
人。

野村  
小泉はよう、安定してたとは言わ  
ねえけど元気のいいGKだったよ  
な。

富川  
野村さんは常に冷静だつたよね、  
スイーパーで。

金兵  
山田はゴツゴツして痛かつたよ。

藤田  
金よお、昔から体重そつだつた  
お前。

西條  
藤田はさ、球引きながらいつまで  
も持つててバスのタイミングわか  
んねえよ。

上原  
とりあえず川辺の前に蹴つとけつ  
ていうサッカーダつたな。

浅輪  
そういうえば上原カピタン、俺がミ  
スしたら「馬鹿野郎!」つて味方  
にあれはねえだろ。

島崎  
右サイドは宮川さんが四角い体で  
直線的に駆け上がつてたね。

川辺  
島崎つて時々つげえセービング  
してたよな。ポロリもあつたけど。

増木  
増木はなんか胸張つて胸トラする  
姿覚えてるなあ。

増木  
西條のボールタッチ柔らかかった  
よね。いま西條がボールみたいだ  
けど。浅輪は急いでかくなつてゴ  
ツいDFになつたね。

小泉  
あんまり勝てなかつたけど、色々  
遊びには行つたよな。式根島、白  
樺湖、金兵別荘。

藤田  
昔なつかしがるのはやっぱおやじ  
になつたつてことか?

野村  
川辺なんか言えよ。

川辺  
おう、まあな。

(高校卒業時在籍者)  
浅輪彰夫  
上原裕之  
金兵正樹  
川辺喜貴裕  
黒田貴行  
小泉雅生  
島崎俊隆  
西條洋介  
根本宏之  
野村俊一  
藤田浩司  
増木洋介  
宮川祐一  
山田宏幸  
(中途退部者)  
小林恒久  
内山俊郎  
川上充郎  
益子達夫  
宮崎淳  
宮永亮

1980年の世相

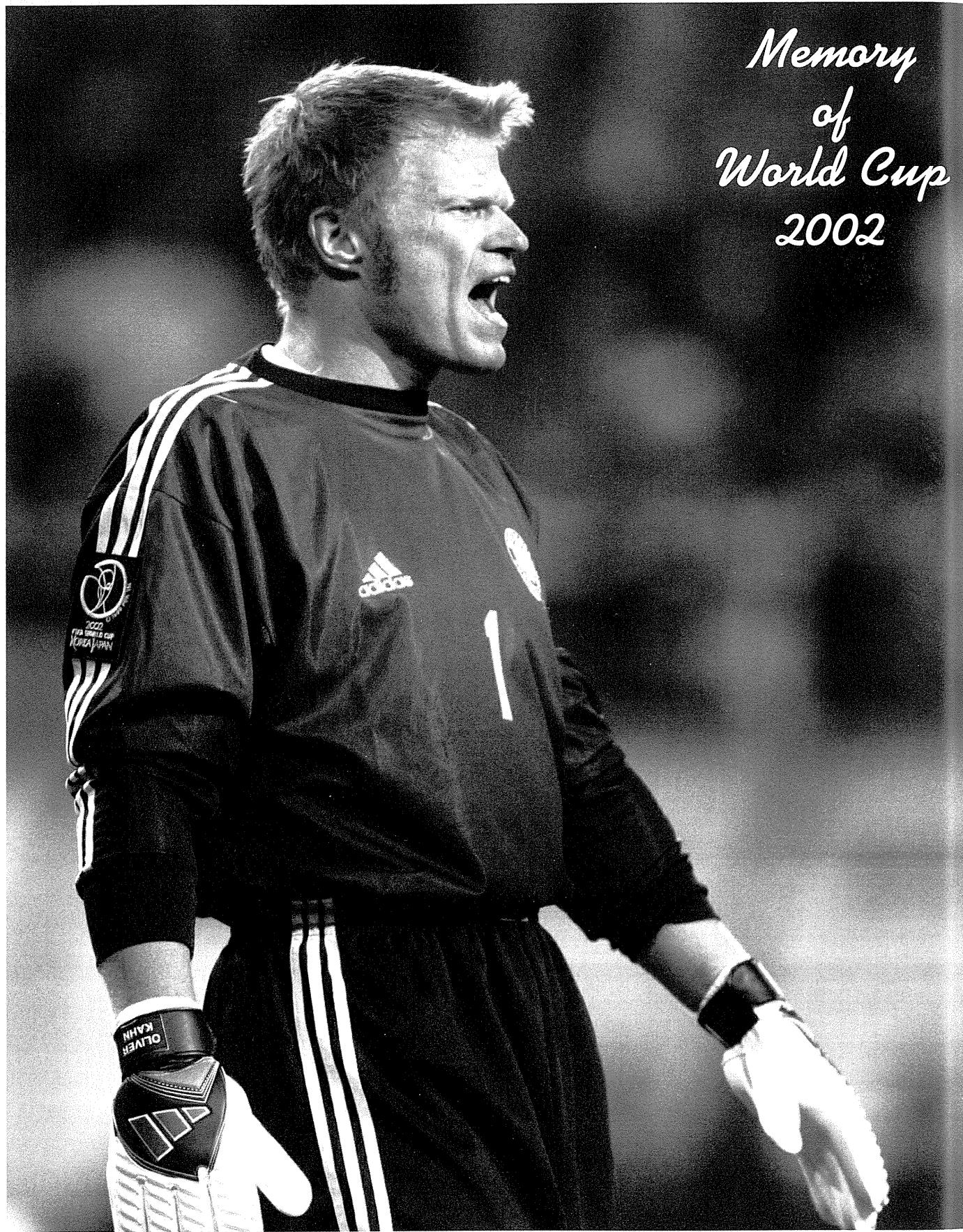
9月 イラン・イラク戦争始まる

12月 ジョン・レノン暗殺

## 主な戦績

公式戦初戦：鎌倉市中学新人戦第1戦 対  
鎌倉学園 14対0で勝利  
以後、高校卒業まで特記すべき戦績なし  
(各大会において、地区リーグの突破、また  
はトーナメントで2回以上勝つことは難しかった)

*Memory  
of  
World Cup  
2002*



©JMPA